かぜ・そら・たいようぐみだより

2021.3.26
円町まぶね隣保園

3がつ

少しずつ暖かくなり、春が近づいてきています。　散歩や園外保育に行っても、あちこちで花が咲き、虫が動き出し、子どもたちも花びらを集めたり、虫を探したりしています。この1年間コロナ禍の中での保育園生活ではありましたが、子どもたちは友だちと一緒にあそんだり、活動したりして楽しんでいました。1年間、色々とご協力いただきまして、ありがとうございました。

たいようぐみ

今年度はコロナによって、生活が制限され、子どもたちにとっても過ごしにくい日々が長く続きました。このような状況で毎日、元気に子どもたちと過ごせたこと、また、プールあそびや運動会ごっこ、お泊まり保育等の行事をみんなで経験出来たことは本当に幸せなことでした。皆様の温かいご支援があったからこそだと思っています。いよいよ明後日は待ちにまった卒園式となりました。

たいよう組になり、2人の友だちが入園し14名での生活が始まりました。始めは仲良しの友だちが数人で集まり、それぞれで遊ぶという姿がありましたが、友だち同士の関わりをたくさん持つ中で、みんなで遊ぶことがどんどん楽しくなり、"○○しよう！""いいね！やろ！やろ！"と自然とみんなが集まるようになりました。一人でも抜けると"○○がぬけたらおもしろないやん"と言って引き止める姿もありました。

それぞれの思いが違い、ぶつかり合ってけんかすることも多くありました。その度、何度も何度も話し合い、相手の思いを知り、また自分の思いを伝えることを繰り返してきました。納得がいかず、1時間近く話し合いをしたこともあります。そこで、こういう風に思って欲しいと大人の理想はありますが、14人いれば14通りの思いや成長の仕方があります。保育者が入ることなく、子どもたちの姿を見守ってきました。自分とは違う考え方や思いを持っていることを知り、感じることで相手とどう折り合いをつけていくか、それぞれが悩み、考えてきた一年です。みんなの思いがぴったりと合った時はとても盛り上がり、笑い声が絶えません。その反面、一度ぶつかり合うと、気持ちが止まらなくなるのも、今の子どもたちの一面です。

様々な行事を通し"やってみよう""やりたい""たのしい"がそれぞれの心の中で広がりました。運動会ごっこでは竹馬に乗ることが難しく、繰り返し乗る中、友だちの励ましもあり乗れるようになったこと、三ツ編みが難しくて、友だちに何度も教えてもらいやり直したこと、また帽子作りでは全員が編み終えて喜び合ったことなど、たくさんの思い出やドラマがありました。苦手なことをやってみようとすること、一歩を踏み出そうとする勇気、目標を持って、そのことに励み続けたこと、たくさんの頑張りや好奇心が、これからの人生の糧となることを願っています。

春には、小学校という新しい環境にがらりと変わります。始めは戸惑うこともたくさんあると思いますが、みんなが少しずつたいよう組になったように、少しずつ一年生になって欲しいと心から応援しています。

そら組からの2年間、本当にありがとうございました。いつまでも自分のことが大好きで思いやりに溢れる子どもたちでいて欲しいなと思います。

そらぐみ

◎ありがとうの気持ちを込めて

たいよう組への卒園プレゼント作りでは、小物入れを作りました。自分たちで染めた染め紙を桜の形に切ったものを貼ったり、シェービング剤に絵の具を混ぜたもこもこの泡絵の具で描いた絵を貼ったりと、1つ1つの工程を丁寧に楽しんで作ります。切り絵では以前はさみを使用した時よりも、線に沿って、持つ所を変えながら、自分で考えてはさみを進めていきます。切ったものを広げると桜の形になっていて、「すごーい！できた！もっとやる！」と嬉しそうな子どもたちです。シェービング絵の具で描くと、いつも使う絵の具とは違い、泡で描きにくい面もあります。色の混ざりや感触を楽しみ、立体的な仕上がりに大興奮の子どもたちです。たいよう組にはお別れ会で渡すまで、内緒ということで話をしていたので、制作中、たいよう組の子どもたちに「なにつくってるの？」と聞かれると、「これはおかあさんへのプレゼント！」「ぼくたちのやつ！ほんまに！」と必死で秘密にする子どもたちです。「ここにえんぴつとかペンとかいれられるなぁ！」「おもちゃもちっちゃいのいれられるで！」とたいよう組の友だちに喜んでもらえるように、それぞれがありがとうの思いを込めて作ることができました。お別れ会でプレゼントするのが楽しみです。

◎楽しかった双ケ丘

「あしたえんがいほいく？」「おべんとう？」「あとなんかいねたら？」と前から楽しみにしていた園外保育に朝からウキウキの子どもたちです。出発してすぐに「もうお弁当たべたい！」という子どももいます。天気も良く、暑いくらいであったので、のびのびと身体を動かして遊ぶことができました。歩いて双ケ丘へ行くのも3回目ともなると見通しもあり、「ついた！」「あ！ここまえもきたところ！」と嬉しそうな子どもたちです。岩山を登り、経験を基に足をかけるところなど考え、楽しんでいます。他園の方にも「こんにちは！」「どこからきたん？」「ようちえん？ほいくえん？」と話かける姿もあります。この丘の上では山の整備をしてくださっている方がトカゲを捕まえて子どもたちを待っていてくださっています。普段じっくりと見ることのできない体験に大興奮の子どもたちです。怖がることなく触ったり、持ち上げたりトカゲを興味津々に見ていた子どもたちです。途中「きゅうけいしよ～」と疲れた様子の子どももいますが、お家の方が作ってくださったお弁当を励みに頑張って山を登ります。自然の中で食べるお弁当は一段と美味しく、大満足の子どもたちでした。

◎おおきくなったね

新年度、保育室や保育者が変わり、新しい環境に戸惑いつつも"そら組になった！"という喜びが溢れていた子どもたちの姿が昨日のことのようです。身の回りのことや生活の流れで出来るようになったこと、また遊びの中で友だちと一緒に遊ぶことに楽しみを感じて、同じ遊びを共有できるようになったことなど、それぞれに成長があります。三角馬や鉄棒など、身体的に出来るようになったことから、その達成感が自信へと変わりました。また新しいことをやってみたいという意欲になったり、あきらめずに頑張る力になったり、その経験が大切です。
たいよう組になってもさらにそのような経験が子どもたちの心に積み重なるようにと願っています。

1年間ありがとうございました!!

かぜぐみ

お店屋さんごっこ

制作展の時に作った、かばんを使って、お店屋さんごっこをしました。
お店の品物は、今までに作ったものを利用しました。
果屋さんとシャツ屋さん、帽子とズボン屋さん、そして、ままごとの食べ物屋さんです。ごっこあそびの前に、財布を作り、赤、青黄色のお金を中に入れます。お店屋さんとお客さんを半分ずつにして、お店屋さんは、エプロンをつけ、お客さんは、かばんを肩にかけて財布を持ち、お店屋さんごっこの始まりです。
「いらっしゃいませー」「果おいしいですよー」「ぼうしどうですか？」「赤いお金1枚です」
「メロンパンください」「この服にします」「はい、お金どうぞ」と、子ども同士でやりとりをしています。
品物を買うと、テーブルに貼ってある色画用紙の数だけお金を払います。財布から1枚1枚お金を出して渡すと、自分のかばんに品物を入れます。たくさん買って、かばんからはみ出したり、入りきらなくて手で持ったりしています。
お店屋さんの品物が売り切れると交替します。
かぜぐみだけのお店屋さんごっこも楽しいですが、今度は、そら組やたいよう組の友だちも呼ぼうということになり、何度もごっこあそびをしました。クラスが違えば、やりとりも違ってきますが、回を重ねることで、自分でエプロンをつけたり、お店に品物を並べたりして楽しんでいました。

おおきくなったよ

かぜ組になったことや、3階の保育室になったことがうれしい子どもたちでした。　この1年は、コロナの影響で、交通機関を使っての園外保育や、クッキング、リズム、歌など、制限されることも多く、心配される日々が続きました。
しかし、子どもたちは、保育園に来ると、友だちや保育者と、関わり合って、楽しい時を過ごしました。
「先生やってー」「～できひん」と保育者を頼っていた子どもたちも、今では「自分でする」と身の回りのことを自分でし、友だちとも関わり合ってあそびを広げるようになりました。
その中で、自分だけではなく、友だちに対しても「どうしたん？」「～か？」と思いやる気持ちも育ってきました。
「もうすぐそらぐみさんになるんやなあ」とひとつ大きなクラスになるのを楽しみにしています。
コロナ禍ではありましたが、保育園で過ごしている時の子どもたちは、笑顔いっぱいでした。
その子どもたちと一年間共に過ごし、楽しい時を共有できたことは、とってもうれしかったです。
1年間ありがとうございました。